

# (非営利型) 一般社団法人Nancy 第4期事業報告書

(2021年7月1日から2022年6月30日まで)

代表理事 住田涼

## I. 事業成果

2019年1月23日にて設立した当法人の活動目的は、

- (1)教育を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養することを目的とする事業
- (2)子育て支援事業
- (3)勤労意欲のある者に対する就労や創業の支援事業
- (4)地域社会の健全な発展を目的とする事業
- (5)関係諸団体との協力関係を増進するための事業
- (6)会員との連絡、交流のための会報や会の開催、名簿等の発行の事業
- (7)その他当法人の目的を達成するために適当と認められる事業
- (8)当法人の持つ知見を普及、共有する事業

等を行うことにより、子どもから若手社会人・子育て世代への教育や子育て支援、就労や創業の支援を主軸に、街ぐるみで子育てし子どもと大人が互いから学び合える共育都市の創出である。

「ぎふマーブルタウン」「ぎふマーブル子育てカフェ」の開催等を行うことにより子どもの主体性・協調性・創造性を引き出す機会の創出に貢献、そして保護者の子育てや教育に役立つコンテンツを届ける機会を創出した。

第2期より開催した新規事業「ハローインタレスト」では、子どもや学生が生き生きと働く社会人から仕事の意義や想いなどを聞き、自身の目指したい仕事や生き方について考える機会を創出した。ただし新型コロナウイルスの影響もあり、当初想定していたBtoCの形による運営継続を困難に感じ、BtoBを主とした路線への変更を模索している。

第3期より開始した「親子de資産形成アカデミー（旧名：Geek養成塾）」では、お金を理由に子どもが夢を諦めなくて済む社会に向けてお金の使い方へフォーカスしながら、親子に向けて投資やお金について学べる機会を創出した。

## II. 事業の実施に関する事項

当法人の自主事業の運営と認知度や信用度を高める事業、資金調達に関する事業を重点ポイントとする。

### 1. ぎふマーブルタウンに関する事項

小学生が架空都市の運営を通して生きる力を獲得するキャリア教育事業「ぎふマーブルタウン」は今年度、2021年7月4日、2021年10月3日、2022年2月6日と再開を想定した日程を組んでいたものの一度も開催する機会がなく終えた。

「ぎふマーブルタウン」の代わりとして8月21日に企画していた、「ぎふマーブル子育てカフェ」をベースとしたオンラインプログラムは声がけした講師候補の方々のご都合がうまく合わなかったため中止とした。

11月3日はアドバイザーとしても関わっていた、岐阜県可児市で行われた「ファミリーマーブルタウン」へ運営サポートで参加した。

選挙と起業を削った派生版イベント「きらきらキッズタウン」を次期である2022年10月2日にドリームシアター岐阜と岐阜市中央青少年会館にてオフライン実施の予定。

### 2. こどものまちオンラインに関する事項

バーチャル展示会を開発提供している企業様と構想を進めているオンライン版ぎふマーブルタウン「こどものまちオンライン」は2社スポンサー企業が見つかったものの開発費はまだ十分に集まっておらず、引き続き開発費・運営費の調達を進めていく。

まだ前例のない取り組みでありイメージも湧きづらいためか、申請した助成金はすべて不採択という結果

となった。

次年度はクラウドファンディングも予定している。実施に向けて伴走してくださっている「Syncable」との打ち合わせの中で、オンラインだからこそ「事情や困難を抱えていて自宅や病室から出られない、でも普通の子達と一緒に遊んだりしたい子どものような、従来のキャリア教育支援が行き届いていない子どもにもキャリア支援を届けられる」というオンラインの価値・可能性に新たに気付くことができた。

また岐阜市と企業版ふるさと納税で連携できないかの模索も進めている。

世界的IT企業であるFacebookが社名を「Meta」へ変更するなど世界的に「メタバース」が話題となっており、本事業としても追い風となりそうである。

### 3. ハローインタレストに関する事項

オフィス家具の大手メーカーである「株式会社オカムラ」中部支社様が企画運営されている、「Cue Dream Project」へ参加。新型コロナウイルスの影響により延期が重なったが、オカムラ様と連携してのBtoBの実証実験を、コロナ禍のため子どもの参加者5名に絞って11月21日に実施した。企業社員の方のお子様に向けて親が働くオフィスの見学や、同社の仕事である家具制作から「段ボール椅子づくり」を企画。社員の方から「こんなところで働けるお母さんどう？」と聞かれて「ずるい！」と答えるほど、子どもに魅力が伝わったようであった。また実施後の振り返りでは「次はテーブルも作ってみたい！」と創作意欲にも繋がっていた。また社員である保護者様からも、後日「親子で仕事に関する話ができるようになりました。在宅勤務をしている時も、今日はどんな仕事をしてるの？と聞いてくるようにもなりました。」「子どもに仕事の話をしてもらいにくかったことも、イメージしやすくなったことで仕事のことを話す機会が今までよりも増えました。」といった声をいただいた。

プロボノとのマッチングを行なっている「認定NPO法人サービスグラント」を通して、住友商事プロボノチームの方々より「BtoB事業の企業様向け営業資料の作成」を支援いただく運びとなった。今期はキックオフを実施し、プロジェクトは次期を中心に進めていく予定である。

### 4. 親子de資産形成アカデミー（旧名：Geek養成塾）に関する事項

ハローインタレストを進める中で、「子どもと大人（ヒーロー）をマッチングする」ことによる効果測定が可能となるのは約10年後であり、それであるならば「子どもを直接ヒーローに育てればよいのではないか？」とのアドバイスを先輩経営者よりいただき、「子どもを直接ヒーロー（≒Geek）に育てる」視点から本事業を開始。子ども自身が自分の夢を実現するためには何が必要なのかを突き詰めて考えたところ、代表の住田が過去に私立中高一貫校で後援した際に「私は絵を描いて生きていきたいけれど、親から『絵なんかで食べていけないわけがないから医者になさい。』と言われて、医者を目指しています。」という中学1年生の子に出会ったことを思い出した。多くの子どもたちは「結局その夢で食べていけないかどうか」の壁に阻まれるが、保護者にとっては「夢は応援したいがそれ以上に、お金で苦勞する人生を歩んでほしくない。」想いが強い。そのため親子がお金を理由に夢を諦めなくて済むために必要な資産形成の話を伝えるということ伝えるため、事業名を「親子de資産形成アカデミー」へと改名した。

チェンジメーカーを育む日本初の全寮制国際高校「ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン」が運営する教育起業の支援プログラム「Hatch Edu」へ2期生として参加。一般社団法人HLAB共同創業者COO高田修太氏やDCM Venturesアソシエイト猿丸美喜氏によるメンタリングのもと、保護者や夢を諦めた経験のある方、学校の進路指導担当教員など様々な方へのヒラリングや事業ブラッシュアップを行った。

当初想定していた子どもの経済的自立に必要なもう1つの視点、子ども自身が自分の手でお金を稼いでいけるためのコンテンツとして動画編集クラスやデザイナークラスを構想していたものの、講師候補だった方々のコロナ禍での多忙化によって実現は当面先となった。

7月18日からの3期は夏休みのタイミングを失念しており、学校で配布されたチラシがおそらくかなり少なく、申し込みが103家族にとどまった。12月19日からの4期は東京の私立校や教育委員会へアプローチしてみたもののふるわず、オンラインのみでの広報となってしまう、申し込みが17家族に。5月15日からの5期では原点回帰し名古屋へのチラシ配布と、東京の豊島区から後援が降りたため135,750枚のチラシを配布し、631家族からの申し込みがあった。

3月17日には関西テレビ「報道ランナー」の金融教育特集にて取り上げていただき、前述の5期では関西からの申し込みが新たに大きく増えた。昨年度の東海テレビ「ニュースONE」で出演くださった1期の参加

者家族が今回も出演。取材を受けながら新聞（おそらく日経ヴェリタス）をパラパラめくっているシーンも映っており、にぐ先生の「自己投資が特に大事！」という教えを大事に、社会の動きを追ったり等の勉強も続けているようであった。

## 5. 広報に関する事項

Facebook、Twitter、Instagram、LinkedInといったSNSを適時更新し、Webサイトの更新やLINE公式アカウントでの発信も適時行った。

プロボノマッチングサービス「GRANT」にてNancyのパンフレットデザイン制作を担ってくださる方を募集し、神谷明子氏により新しくNancyのことを分かりやすく伝えられるパンフレットを制作した。

株式会社リーピーへ委託し、Nancyの寄付者を募集するサイトを制作した。これによりマンスリーサポーターの増加にも繋がった。

## 6. 資金調達に関する事項

Nancy全体を応援くださっているマンスリーサポーターや協賛企業による寄付収入がメインである。ぎふマーブルタウン自体は停止しているものの、オンライン版である「こどものまちオンライン」実現を期待してくださっている方からの寄付が少し増えた。また2020年末より始めた「親子de資産形成アカデミー（旧名Geek養成塾）」に関しても、金融教育が全国的に注目されてきたため期待の声の広がり、寄付が増えてきている。

## 7. 実績に関する事項

10月2日はコモンズ投信が主催する、社会起業家の登竜門と言われる「第13回コモンズ社会起業家フォーラム」へ登壇した。

一般社団法人地域問題研究所の50周年・名古屋都市センター設立30周年の特別記念フォーラム「～若きイノベーターとの対話からはじめる～中部のミライ創造フォーラム」の事前勉強会・フォーラムにて登壇した。